乙川小学校
校長通信
No. 8

おっかわ ぜっこうちょうだより

令和３年７月１日発行
半田市立乙川小学校
発行責任者：森下正康

自分の力を全部出した　2021 年運動会

「運動会のめあては、自分の力を全部出すことです」と開会式で言いました。緊急事態宣言などの影響で延び延びになっていた運動会。子どもたちのモチベーションが下がっているのではないかと心配して掲げためあてです。ですが、私の心配をよそに、子どもたちは力の限りを出して競技に挑みました。

徒競走では、途中でこけてしまう子が何人もいました。それでもみんな立ち上がり最後まで走るんです。ゴールした後、保健の先生に手当てをしてもらっている最中に痛みを感じて泣き出してしまう子。それまで痛みを忘れるほど全力だったんですね。

足が不自由でも歩行器を使いながら最後まで自分の力で走りきった子。ゴール前では自然に周りの子たちから拍手が起きていました。担任の先生も思わず万歳。

走るのが苦手でビリになった子。でも一生懸命走っている姿を見ると、きっとこの子は何か得意なことで成功するに違いないと思いました。だって苦手なことでもこんなに一生懸命がんばれるんですから。

2学年ずつで演じたダンスや集団行動。先生から励まされたり、時には叱られたりしながら、何回も何回も練習を繰り返してきました。本番では子どもたちの緊張感が伝わってきました。演技の途中で間違っちゃった子もいました。でも全員が心を一つに演技していると、失敗だってカバーできてしまうのですね。
低学年は本当にかわいらしく、中学年はキレッキレの動きのダンスを見せてくれました。高学年の集団行動にも感動しました。200 人近い子が心を合わせて動きを合わせる。正直に言うと「個性の時代といわれる中、今の小学生に集団行動なんてできないでしょ」って私は思っていました。ごめんなさい。君たちが仲間をとても大切にしていることを教えられた気がしました。

5,6 年生がささえる

5,6 年生は、委員会ごとに各競技を裏で支えてくれました。運動会当日だけでなく、前日の準備のときも、みんなが競技をし終わった後の片付けまで、テキパキと仕事をする姿は、さすが 5,6 年生です。
ありがとう！